

ジャンル	子ども・教育	日本語学習	医療・福祉	労働	災害対策	意識啓発 地域づくり	推進体制の 整備	その他
事業名	医療通訳育成研修事業							
団体名	財団法人大阪府国際交流財団							

\*\*\*\*\* 事業のポイント \*\*\*\*\*

大阪府内では、年々国際化が進展する中で、全般的に医療通訳者、ボランティアの不足が認識されるようになっていた。このような背景のもと、高度な通訳スキルや専門知識を有する医療通訳ボランティアを育成するための研修を実施し、外国人の受診機会の拡大を図り、外国人が今まで以上に安心して医療を受ける環境整備を推進することを目的として本事業を実施した。実施に際しては、(特活)AMDA 国際医療情報センター及びりんくう総合医療センター(市立泉佐野病院)と連携して、医療通訳ボランティアとしての活動の場を受講生に提供できるようにした。

(助成年度 区分)	平成 20 年度地域国際化施策支援特別対策事業	事業総額	1,446 千円 (内 CLAIR 助成金 1,061 千円)
--------------	-------------------------	------	---------------------------------------

事業の内容、成果等

●事業実施の背景

大阪府では、平成 20 年度で、約 21 万人の在住外国人に加え、「VISIT OSAKA キャンペーン」展開による外国人観光客の増加に伴い、年々国際化が進展していた。そのような中、日本語で意思疎通ができない外国人が安心して医療を受けることができるよう、医療通訳の整備が求められていた。府内でも、医療通訳サービスを提供している病院、NPO 等はあるが、全般的に医療通訳者、ボランティアが不足していた。特に希少言語の通訳者の不足が課題とされていた。

●事業目的

高度な通訳スキルや専門知識を有する医療通訳ボランティアを育成するための研修を実施し、研修修了者にボランティア活動の場を提供し、外国人の受診機会の拡大を図り、外国人が今まで以上に安心して医療を受ける環境整備を推進することを目的とした。

●実施内容

研修修了後において、研修生に医療通訳ボランティアとしての活動の場を提供できるよう、(特活)AMDA 国際医療情報センター及びりんくう総合医療センター(市立泉佐野病院)と連携し、医療通訳ボランティア養成研修を実施した。

募集にあたっては、外国人サポートの経験がある者で、研修修了後、上記両団体で医療通訳ボランティアとして活動意思のある者とした。また、募集人数、対象言語は両団体のニーズに合わせた。

対 象: ・ボランティア活動等を通じて外国人サポートの経験がある者

・「(特活)AMDA 国際医療情報センター」または「りんくう総合医療センター」にボランティア登録し、活動する意思のある者

募 集: 英語 20 名、中国語 20 名、スペイン語 20 名、ポルトガル語 20 名

受講者: 英語 25 名、中国語 22 名、スペイン語 13 名、ポルトガル語 10 名

修了者：英語 20 名、中国語 15 名、スペイン語 9 名、ポルトガル語 8 名

内容：

日時	研修内容	講師(敬称略)
1日目 (11/5)	医療通訳の概要、 心得、注意点、外国人医 療の現状と課題	小林国際クリニック理事長/委員長 小林米幸 りんくう総合医療センター副病院長 伊藤守
2日目 (11/12)	医療通訳スキル1 医療通訳スキル2	医療通訳研究会(MEDINT)代表 村松紀子 スペイン語通訳者 西松鈴美
3日目 (11/19)	医療用語(言語別 研修)	(英 語)京都大学大学院人間・環境学研究科外国語教育 講師 アレクサンダー・ギルモア (中国語)神戸東洋医療学院講師 李宏 (スペイン語)大阪大学人間科学研究科特認研究員 エレラ・ルルデス (ポルトガル語)りんくう総合医療センター 健康管理センター長 南谷かおり
4日目 (11/26)	ロールプレイ(言語別研 修)	英語)在名古屋ブラジル総領事館ブラジル人民委員会 Disque saude 相談医 中萩エルザ (中国語) 李 宏 (スペイン語)エレラ・ルルデス (ポルトガル語) 南谷かおり
5日目 (12/3)	ワークショップ	多言語コミュニティ通訳ネットワーク共同代表 京都市福祉 事務所中国語通訳者 飯田奈美子、エレラ・ルルデス、 村松紀子

## ●事業の成果

### ① 人材の育成

英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、合わせて 52 名が研修を修了し、医療通訳者としての心構えや実践的な知識、スキルを習得した。研修後に行ったアンケートでは、ほとんどの研修生が役に立ったと答え、全員が目指すべき医療通訳者像をはっきりと示しており、今後の医療通訳ボランティアとしての活躍が期待できる。

また、受講者は、研修を通して他の受講者、講師、実施団体等とのネットワークづくりができ、情報交換、医療通訳技術の向上、活動継続のモチベーションの維持につながった。

### ② 受診機会の拡大

修了生のうち、33 名は、(特活)AMDA 国際医療情報センターまたは、りんくう総合医療センター(市立泉佐野病院)において、医療通訳ボランティアとして登録し活動を始めている。医療通訳ボランティアの確保により、AMDA 国際医療情報センター関西では中国語の電話相談窓口が新たに開設されることになり、また、りんくう総合医療センターでも、診療日が増設されるなど、外国人の受診機会の拡大につながった。

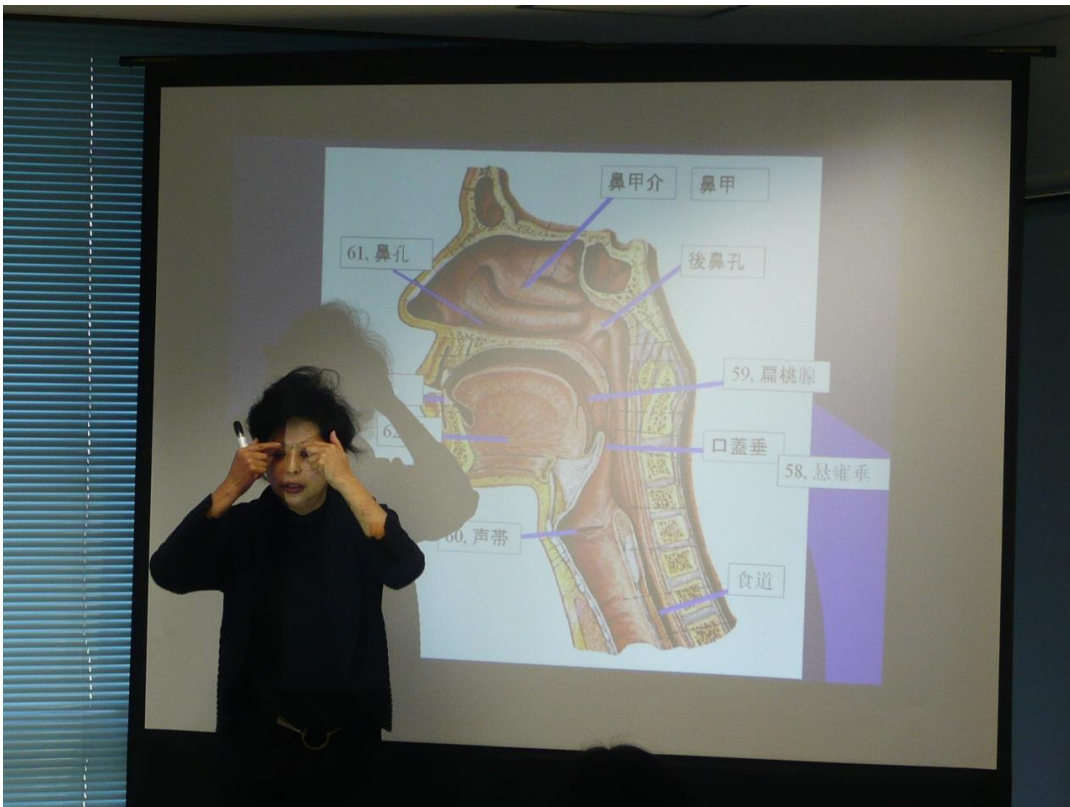
## ●課題と事業展望

① 今回の研修では、(特活)AMDA 国際医療情報センター及びりんくう総合医療センター(市立泉佐野病院)における医療通訳サービスの充実をモデル的に図ったが、今後は、幅広く府内全体の医療通訳サービスを充実させていく必要がある。

② 当研修修了生をはじめ、医療通訳ボランティアとして活動している者を対象に、活動継続のモチベーションの維持や、さらなるスキルアップを図るため、情報交換の場やスキルアップ研修等を実施していく必要がある。



【医療通訳の概要等についての講義】



【医療用語の講義】





【ロールプレイ】



【グループワーク】